

手をつなぐとも

# 等友

S  
60  
10  
·  
1  
生

〒111-0041  
台東区元浅草  
2-10-17  
3841-2844  
浄土真宗  
勝龍山  
等覺寺  
住職  
朝倉馨

平成24年4月  
第97号



本堂の畳を新調しました  
(ご門徒の金綱畳店さんのご協力)

時  
時は、金剛  
なまく、うはどる  
いまと、うちだよ  
この時は、金剛  
自分の一生の中の  
一にて、ゆくながら  
みつを

相田みつを心の詩 アノネより  
(ダイヤモンド社)

## 住職から 一言

※ 三月十七日は等覚寺坊守の命日です。

一周忌法要は身内で無事お勤めいたしました。一周忌に当たり、住職と母が一筆とりましたので掲載させていただきます。

### 坊守について

頭の中に浮かぶのは、自分が会社勤めに出ていた間、坊守はご門徒（みなさん）の事、家事全般を守ってくれた有難さです。それを思うといつも合掌念佛しています。

いつも明るく、その日に接したご門徒の近況やお話を当方に伝えてくれたおかげでみなさんの距離も近く感じられたものでした。

愚痴を言わず不平をもらさず、すべては自分の仏様へのご恩返しなのだといった坊守の姿を見て、当方もいつも反省させられていた記憶も想いおこされます。

しみじみその一生を考えて、よく支えてくれた恩を感じつづっこに合掌し、文を結びます。



## 坊守 一 周忌

私が寺に生まれ、母について想うこと

荒川 園子

私が幼かった頃、住職である父は会社務めをしながら寺の仕事をしていた。当時寺の収入だけでは父母姉私が生活していくには余裕があまりなかつたことから丸の内にある会社に勤めだしていた。そんな中母である坊守は、寺の事・ご門徒さんとの接待・寺の行事や法事の連絡・通夜葬儀の打ち合せなど、すべて一人でこなしていた。その上で町内会の仕事、私達の学校の行事等々をもこなし、忙しい・大変だ・疲れた」という言葉は母からは一度も聞いたことがなかつたように思うし、私にも「寺の仕事を手伝え」とか、毎日忙しく自分の

時間を持てないから、たまにはゆっくりしたい」ということも言われたことはなかつた。

最後の寝つきりになつた時　まだ意識はあつた時）毎朝母に「おはよう」と声をかけに寝室に入つていくと、あらら、寝坊しちやつたわ。ごめんなさいね、これから私が門を開けて庭を掃除するから、あなたここで寝ていいわよ」と。この時はもう体重も半分くらいになつて立てる状態ではなかつたのに、寺の仕事をしなければ、とう母の寺に対する強い意識を目の当たりにし、とてもありがたい、優しい母だとつくづく感じた。

いつも母はみんなが喜ぶことが優先で、自分の事はひたすら後回し、でも不平不満はまったく言わなかつた。つねにニコニコ笑つていた母。

今、自分が母と同じ立場に立つてみて、寺の仕事の多さ・寺を留守にできないしさをいろいろ感じ、母の偉しさ・優しさがつくづく身にしみていて。

若いころの勝手気ままに行動していた自分が、母に対してもう申し訳なかつたな、と今になつて頭が下がる。母のようには出来はしないけれど、少しずつ寺のため、ご門徒さんのために母を思い出しながら寺を守つていきたいと思う。

母との入れ替わり?で、長男と嫁に謙心というかわいい孫が生まれ、その上次男も二月末に結婚し、女っ気のなかつた我が家に二人もかわいい気のつくいい嫁が来てくれて、住職はじめ、家族全員で皆さまに安心していただける寺にしていきたいと思っておりますので、あらためてよろしくお願ひします。

## 新年会

平成二十四年一月十五日に新年会を開催いたしました。

昨年一年間は大変なことが多々ありましたが、新たな年を迎えた慶びを胸に、新年の法要を皆様と共に無事お勤めすることができました。

少しではありますが、写真と共にご紹介させていただきます。今回来られなかつたみなさまも次回はぜひお気軽にご参加下さい。



みんなでくじ引き



宮原勉さん作のひょうたん  
こちらも景品(大人気!)

ら伺った話をしたい。



住職もごあいさつ



法話の様子

当日のお勤め後の法話もちよつとご紹介させていただきます。

昨年五月に生まれ八ヶ月となつた謙心は日々できることが増えていくが、今年九十八歳となる住職は逆に減っていく。そこに命のあり方、姿そのものを見る。考えてみると生まれた瞬間に死は始まっている。

新年ということで、初詣に行かれた方も多いのではないか。先日、「いのちのふれあいゼミナール」の講師である田口さんか

明治神宮にはお正月の三が日に約三百万人の人が初詣に来るという。多くの方はその年を無事に過ごせるようになると祈る。しかし単純計算で、そのうち少なくとも何万人かはその年に亡くなっているわけである。このことを神社に言うと東本願寺にお参りに来る人はどうなんだ？」と返された。東本願寺にお参りに来る人は何かを祈るわけではなく、その日お参りに来れたことを感謝しに来るのであり、そこが根本的に異なる」と答えたという。

この例え話は真宗の教えをわかりやすく表していると思う。だから初詣に今年のお願いに行つても本当の意味では救われない。いいことも悪いことも起こる人生・現実をそつくりそのまま受け止める

ことができるようになるのが本当の御利益ではないか。

話は変わるが、最近通夜葬儀の場で「清め塩」や「相箸 あいばし」について、なぜ真宗では行わないのかを説明するようしている。それぞれは仏教を起源としたものではなく、古来から日本人が死を恐れ、「穢れ」として扱ってきたことによるものである。

この話への反響が大きいことに驚く。考えてみると自分自身が喪主を務めることになるのは、だいたい人生で2回のみ。知る機会が少ないわけだ。そういうことからこの説明は、改めて私たちが「死」をどう受け止めていくかを考える大事なきっかけとなるのではないかと思う。

## いのちのふれあいゼミナール

以前からお知らせしておりました、

「いのちのふれあいゼミナール」が2月19日に近くの聞成寺にて開催されました。

「いのちのふれあいゼミナール」とは、地域のお寺が合同で開催する聞法会です。今回は真宗大谷派僧侶であり、東京ボウズバー会長も務められる田口弘さんを講師としてお招きいたしました。テレ

ビ・新聞・ラジオなどで御存知の方も多いかと思います。

田口さんは、視覚に障害を抱え、小さい頃からいじめにあい苦しみながらも真宗の教えと出会い、救われた経験を平易な言葉を用いながらお話くださいました。等覚寺からは長村さん・村田さん・大関さんの三名がご出席くださいました。

その後上野で行われた懇親会も楽しんで

いただけたようで嬉しかったです。

また次回もご案内いたしますので、どう

ぞお気軽にご参加下さい。（釋創龍）

## 東日本大震災義捐金について

おかげさまでお寺からの分も含め43、627円集まりましたので、真宗大谷派東京教区災害ボランティア支援金へと寄付させていただきます。

最近ではメディアでもなかなか取り扱われず、現地のことがわかりづらい状況ですが、なかなか復興が進んでいないというのがやはり現実のようです。等覚寺では引き続き支援していきたいと思っておりますので今後もご協力いただけましたら幸いです。

## 喪に服す？

喪に服す」って今では当たり前のようになつてきていますが、その由来ってご存知ですか？ 最近では家族を失った悲しみで慶事に参加するどころではない、という理由も出ておりますが、この習慣は先ほども記載した通り、実は死を「穢れ」けがれ」とする日本古来の宗教観から根付いているものなのです。親族が亡くなるとその家族も穢れる、その穢れが他の人に伝染しないように人々の集まりや慶事への出席を一定期間控えるべき、という考え方です。

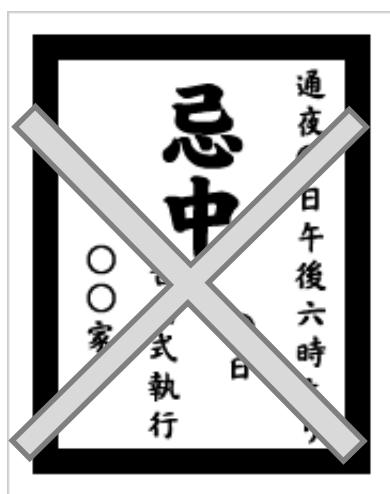
今まで親しくお世話になつた親族が、命を終えたとたんその身が穢れとなるなんて、なんと寂しい考え方でしようか。

私たち浄土真宗の教えでは、命を終えると阿弥陀如来がお淨土へとお救いくださいます。このような難しい話を抜きにしても、私たちがいつまでもさまざまな行動を慎み・慶事へ参加せずに悲しみ続けている姿を、故人がお淨土からご覧になつたらどう思われるでしょうか。まずは亡くなつた方から最期に教えていただいた、「命はからず終りがある」という「限りある命」の教えを受け止め、今まで以上に一生懸命に日常生活を生きたほうがきっとお淨土でお喜びになつていただけるのではないでしようか。



私個人も今年は年賀状をお断りすることなく、いつもどおりに新年を迎えたという慶びと感謝を友人知人にも報告させていただきました。

※ただし、年賀状については一般的な常識やマナーにも関わってくることなので、相手の方のことをよく考えて年賀状を出す出さないを決めるといいでしよう。基本的に今回の考え方であるというふうに覚えておいていただけると幸いです。



忌中札も  
必要ありません

## ご披露

等友へのご懇意

鈴木様 西村様 万代様 高木様 福原様  
浅井様 加藤様 多田様 栗原様 小笠原様  
高橋様 (順不同)

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております。  
申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただきます(と思ひます)

## 編集後記



（こにちは、釋翔雲弟・翔）です。  
お彼岸も終わり、やつと春の気配が見え隠れしてきましたが、みなさんお元気にお過ごしでしょうか。

日々の気温の差が激しく体調も崩しやすいですし、インフルエンザにも気をつけなくてはいけない。

そして春と言えば今度は花粉の季節です。これもキツイですね。。。鼻がつまってしまつてしまつとお勤めにも関わつきますので、僕は飲み薬で対策しています。

最近は時間が経つのも早く、あれよあれよといつ間に夏がやつてくるでしょう。

そうすると今度はお盆です。

例年通りお盆法要がござりますので、その時はまたお気軽にご参加くださいね。



四月八日は花まつり  
(お釈迦様の誕生日)

## 平成二十四年行事予定

七月十三日～

十六日

お盆

七月十五日（日）

盂蘭盆会法要

九月十九日～

二十五日

秋のお彼岸

十月二十八日（日）

報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、  
お気軽にご参加ください。

# 平成二十四年年回表

一周忌	平成二十三年
三回忌	平成二十二年
七回忌	平成十八年
十三回忌	平成十二年
十七回忌	平成八年
二十三回忌	平成二年
二十七回忌	昭和六十一年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和四十一年
五十回忌	昭和三十八年
七十四回忌	昭和十八年
百回忌	明治四十六年